わが家の防災メモ

家族で話し合い記入しておきましょう!

わが家の避難場所	土砂災害時	洪水時

家族の緊急集合場所	

親戚、知人の連絡先

氏　名	住　所	電話番号	勤務先、学校など

家族の緊急用データ

氏　名	生年月日	血液型	アレルギー	病　気	常備薬	かかりつけ医

メモ欄

保存版

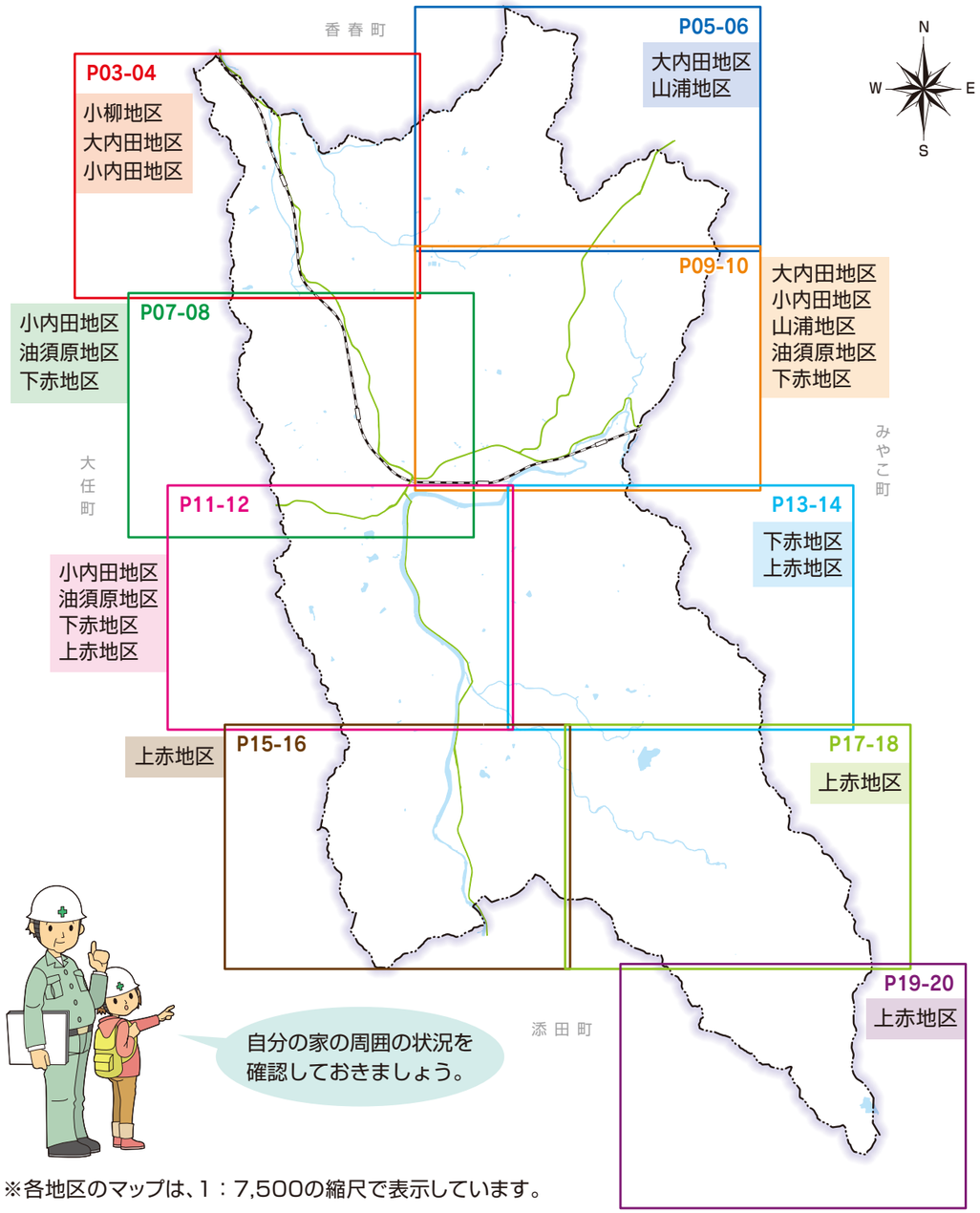
赤村防災ハザードマップ

平成27年１月改訂

目　次

01	目次、索引図
02	主な語句の意味
03-20	各地区 土砂災害・洪水ハザードマップ
21	避難施設一覧
22	洪水・浸水害に備えて
23	土砂災害に備えて
24	台風に備えて
25	地震に備えて
26	赤村における地震の想定
27	避難のポイント
28	非常持ち出し品と非常備蓄品
29	防災情報の発信
30	緊急時のテレホンガイド
裏表紙	わが家の防災メモ

土砂災害・洪水ハザードマップ索引図



※各地区のマップは、1：7,500の縮尺で表示しています。

主な語句の意味

ここでは、マップに登場する主な語句の意味を説明します。

浸水実績区域

平成24年7月の九州北部豪雨災害時における村内河川について、実際に浸水した区域を示したものです。各区長を通じて、当時の浸水状況を集約したうえでマップに反映しています。あくまで人間の見聞によるものであるため、多少の誤差はあると思われますが、今後の避難の方向性を考えるためにご活用ください。

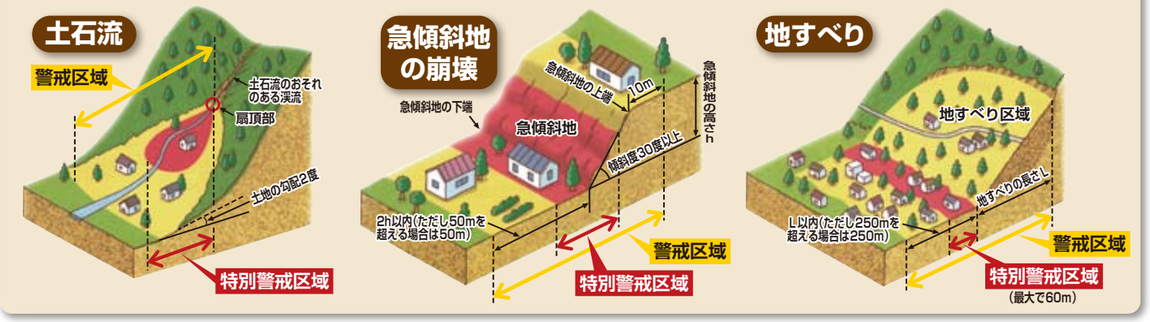
浸水想定区域と浸水深

福岡県が管理している今川について、水防法の規定により指定された浸水想定区域とその想定水深を示したものです。平成１９年１２月末時点の今川の河道（かどう）の整備状況、油木ダム等の洪水調節施設の状況等を勘案したうえで算出されたデータになります。

土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）	土砂災害防止法に基づき指定された区域であり、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域です。
土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）	土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。

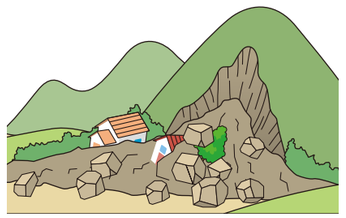
これらの区域は「土石流（どせきりゅう）」「急傾斜地の崩壊（きゅうけいしゃちのほうかい）」「地すべり」といった３種類の土砂災害別に区分されています。



山地災害危険地区

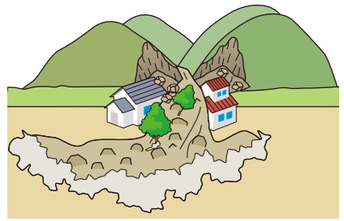
山地において崩壊や土砂流出等の危険が高いと考えられる箇所のうち、人家、道路等への影響が大きい地区を示したものです。災害の発生形態によって以下３つに区分されています。

山腹崩壊（さんぷくほうかい）危険地区



山崩れや落石等による災害のおそれがある地区

崩壊土砂流出危険地区



山崩れによって発生した土砂が土石流となって流出するおそれがある地区

地すべり危険地区

地すべりによる災害が発生するおそれがある地区
（赤村は該当なし）

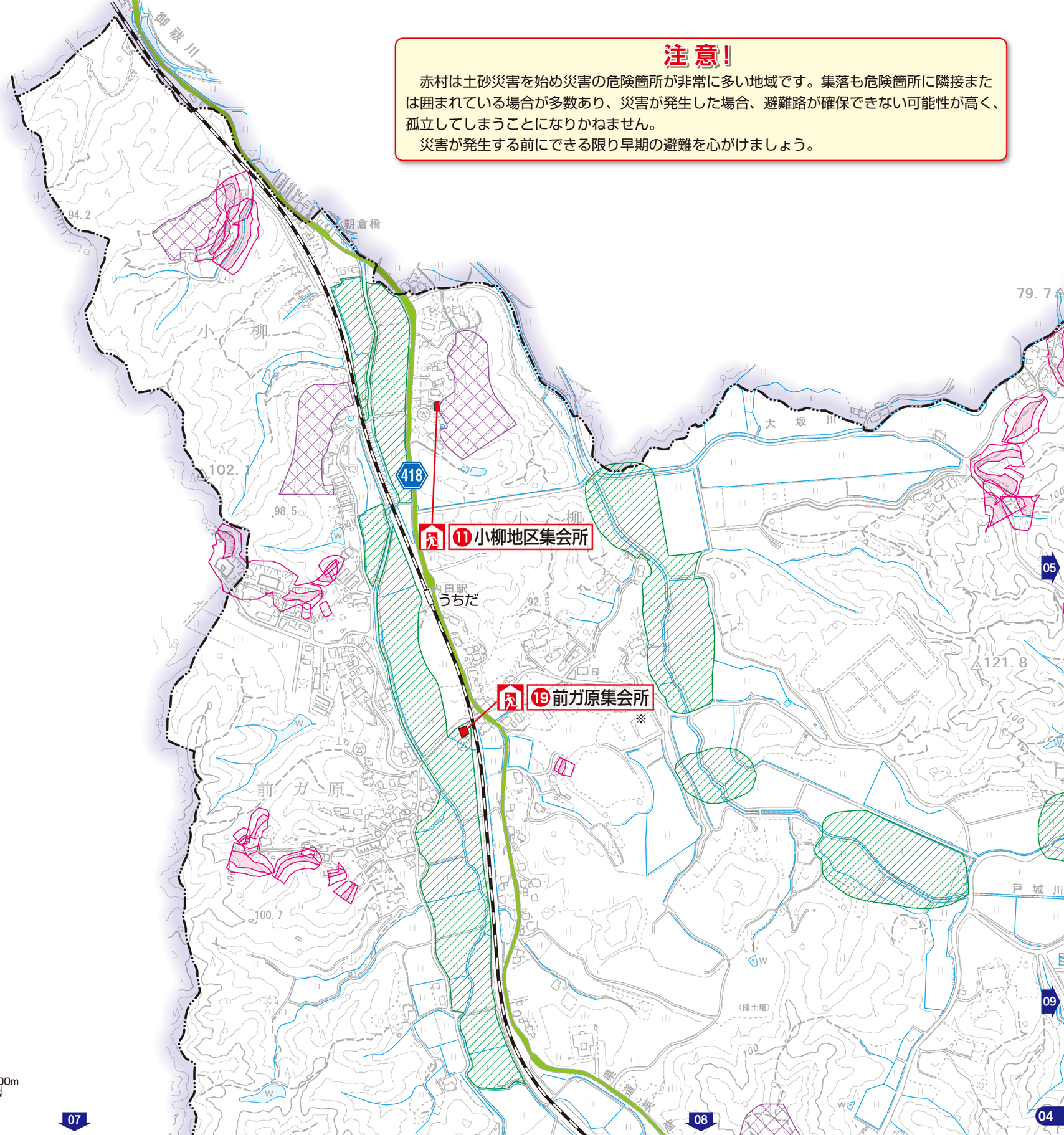
小柳地区
大内田地区
小内田地区

N
W E
S

注意！

赤村は土砂災害を始め災害の危険箇所が非常に多い地域です。集落も危険箇所に隣接または囲まれている場合が多数あり、災害が発生した場合、避難路が確保できない可能性が高く、孤立してしまうことになりかねません。

災害が発生する前にできる限り早期の避難を心がけましょう。



凡例

凡例	
凡	指定緊急避難場所
凡	指定避難所
消	消防団詰所・格納庫
	水位周知区間河川
	行政界
	鉄道
	主要地方道・県道

浸水実績区域

平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

- 浸水深 2.0m～5.0m
- 浸水深 1.0m～2.0m
- 浸水深 0.5m～1.0m
- 浸水深 0.5m未満

土砂災害（特別）警戒区域

- 特別警戒区域（土石流）
  警戒区域（土石流）
- 特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）
  警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（地すべり）

山地災害危険地区

- 山腹崩壊危険地区
- 崩壊土砂流出危険地区

避難施設

- ⑪ 小柳地区集会所
- ⑲ 前ガ原集会所 ※

※ ⑲は洪水および内水氾濫の危険が高まっている状況では使用できません。

1：7,500

0 100 200 300 400 500m

大内田地区
山浦地区

N
W
E
S

土砂災害（特別）警戒区域

- 特別警戒区域（土石流）
- 警戒区域（土石流）
- 特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（地すべり）

山地災害危険地区

- 山腹崩壊危険地区
- 崩壊土砂流出危険地区

避難施設

⑩ 大内田研修センター

凡　例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 消防団詰所・格納庫
- 水位周知区間河川
- 行政界
- 鉄道
- 主要地方道・県道

浸水実績区域

- 平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

- 浸水深 2.0m～5.0m
- 浸水深 1.0m～2.0m
- 浸水深 0.5m～1.0m
- 浸水深 0.5m未満

1：7,500

0　100　200　300　400　500m

⑩大内田研修センター

消防団第5分団詰所

04
05
09
10
06

小内田地区
油須原地区
下赤地区

凡　例

指定緊急避難場所	
指定避難所	
消防団詰所・格納庫	
水位周知区間河川	
行政界	
鉄道	
主要地方道・県道	

浸水実績区域

平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

浸水深 2.0m～5.0m
浸水深 1.0m～2.0m
浸水深 0.5m～1.0m
浸水深 0.5m未満

土砂災害（特別）警戒区域

特別警戒区域（土石流）
警戒区域（土石流）
特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）
警戒区域（急傾斜地の崩壊）
警戒区域（地すべり）

山地災害危険地区

山腹崩壊危険地区
崩壊土砂流出危険地区

避難施設

① 赤村住民センター
② 赤小学校
③ 赤小学校体育館
⑤ 赤中学校
⑥ 赤中学校体育館
⑦ 赤村人権福祉センター
⑨ 小内田多目的集会所
⑬ 赤村健康増進センター
⑭ 赤村保健センター
⑳ 油須原コミュニティセンター

1：7,500

0　100　200　300　400　500m

03
04
09
07
11
12
08

大内田地区
小内田地区
山浦地区
油須原地区
下赤地区

凡　例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 消防団詰所・格納庫
- 水位周知区間河川
- 行政界
- 鉄道
- 主要地方道・県道

浸水実績区域

- 平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

- 浸水深 2.0m～5.0m
- 浸水深 1.0m～2.0m
- 浸水深 0.5m～1.0m
- 浸水深 0.5m未満

土砂災害（特別）警戒区域

- 特別警戒区域（土石流）
  警戒区域（土石流）
- 特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）
  警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（地すべり）

山地災害危険地区

- 山腹崩壊危険地区
- 崩壊土砂流出危険地区

N
W　E
S

1：7,500
0　100　200　300　400　500m

消防団第6分団詰所

⑫源じいの森

⑮源じいの森温泉

⑳油須原コミュニティセンター

避難施設

⑫ 源じいの森
⑮ 源じいの森温泉
⑳ 油須原コミュニティセンター

小内田地区
油須原地区
下赤地区
上赤地区

N
W E
S

凡　例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 消防団詰所・格納庫
- 水位周知区間河川
- 行政界
- 鉄道
- 主要地方道・県道

浸水実績区域

- 平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

- 浸水深 2.0m～5.0m
- 浸水深 1.0m～2.0m
- 浸水深 0.5m～1.0m
- 浸水深 0.5m未満

土砂災害（特別）警戒区域

- 特別警戒区域（土石流）
- 警戒区域（土石流）
- 特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（地すべり）

山地災害危険地区

- 山腹崩壊危険地区
- 崩壊土砂流出危険地区

避難施設

4 赤小学校上赤分校
5 赤中学校
6 赤中学校体育館
7 赤村人権福祉センター
8 上赤集会所
16 下赤集会所
20 油須原コミュニティセンター

1：7,500

0　100　200　300　400　500m

下赤地区
上赤地区

09
10
12
13
16
17
18

N
W
E
S

凡　例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 消防団詰所・格納庫
- 水位周知区間河川
- 行政界
- 鉄道
- 主要地方道・県道

浸水実績区域

- 平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

- 浸水深 2.0m～5.0m
- 浸水深 1.0m～2.0m
- 浸水深 0.5m～1.0m
- 浸水深 0.5m未満

土砂災害（特別）警戒区域

- 特別警戒区域（土石流）
- 警戒区域（土石流）
- 特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（地すべり）

山地災害危険地区

- 山腹崩壊危険地区
- 崩壊土砂流出危険地区

1：7,500

0　100　200　300　400　500m

上赤地区

N
W E
S

凡　例	
凡	指定緊急避難場所
凡	指定避難所
消	消防団詰所・格納庫
	水位周知区間河川
	行政界
	鉄道
	主要地方道・県道

浸水実績区域

	平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

	浸水深 2.0m～5.0m
	浸水深 1.0m～2.0m
	浸水深 0.5m～1.0m
	浸水深 0.5m未満

土砂災害（特別）警戒区域

	特別警戒区域（土石流） 警戒区域（土石流）
	特別警戒区域（急傾斜地の崩壊） 警戒区域（急傾斜地の崩壊）
	警戒区域（地すべり）

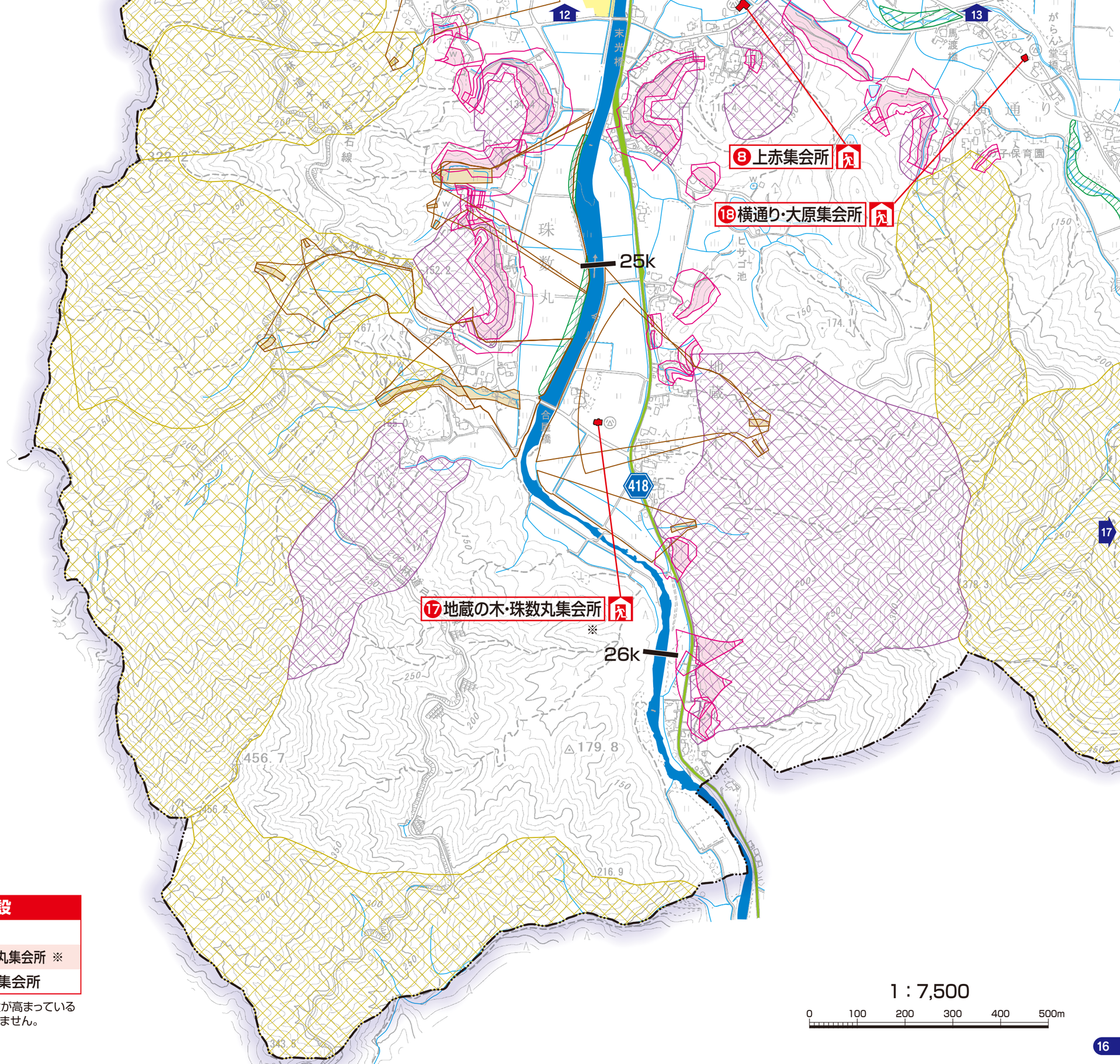
山地災害危険地区

	山腹崩壊危険地区
	崩壊土砂流出危険地区

避難施設

- ⑧ 上赤集会所
- ⑰ 地蔵の木・珠数丸集会所 ※
- ⑱ 横通り・大原集会所

※ ⑰ は土砂災害の危険が高まっている状況では使用できません。



上赤地区

土砂災害(特別)警戒区域

- 特別警戒区域(土石流)
- 警戒区域(土石流)
- 特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)
- 警戒区域(急傾斜地の崩壊)
- 警戒区域(地すべり)

山地災害危険地区

- 山腹崩壊危険地区
- 崩壊土砂流出危険地区

凡　例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 消防団詰所・格納庫
- 水位周知区間河川
- 行政界
- 鉄道
- 主要地方道・県道

浸水実績区域

- 平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

- 浸水深 2.0m～5.0m
- 浸水深 1.0m～2.0m
- 浸水深 0.5m～1.0m
- 浸水深 0.5m未満

警戒ため池

- 梅の木ため池

※福岡県における「警戒すべきため池」の定義は、①堤高15m以上または②堤高10m以上でかつ総貯水量10万㎥以上のため池のうち決壊時の影響の大きなもの、となっています。

N
W　E
S

1：7,500

0　100　200　300　400　500m

上赤地区

凡　例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 消防団詰所・格納庫
- 水位周知区間河川
- 行政界
- 鉄道
- 主要地方道・県道

浸水実績区域

- 平成24年7月九州北部豪雨

浸水想定区域

- 浸水深 2.0m～5.0m
- 浸水深 1.0m～2.0m
- 浸水深 0.5m～1.0m
- 浸水深 0.5m未満

土砂災害（特別）警戒区域

- 特別警戒区域（土石流）
- 警戒区域（土石流）
- 特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（急傾斜地の崩壊）
- 警戒区域（地すべり）

山地災害危険地区

- 山腹崩壊危険地区
- 崩壊土砂流出危険地区

1：7,500

0　100　200　300　400　500m

避難施設一覧

No.	避難施設名	指定緊急避難場所としての指定 対象とする異常な現象					指定避難所としての指定
		洪水	内水氾濫	土砂災害	地震	大規模火災	
①	赤村住民センター	○	○	○	○	○	○
②	赤小学校	○	○	○	○	○	○
③	赤小学校体育館	○	○	○	○	○	○
④	赤小学校上赤分校	○	○	○	○	○	
⑤	赤中学校	○	○	○	○	○	○
⑥	赤中学校体育館	○	○	○	○	○	○
⑦	赤村人権福祉センター	○	○	○	○	○	
⑧	上赤集会所	○	○	○	○	○	
⑨	小内田多目的集会所	○	○	○	○	○	
⑩	大内田研修センター	○	○	○	○	○	
⑪	小柳地区集会所	○	○	○	○	○	
⑫	源じいの森	○	○	○	○	○	○
⑬	赤村健康増進センター	○	○	○	○	○	○
⑭	赤村保健センター	○	○	○	○	○	○
⑮	源じいの森温泉	○	○	○	○	○	○
⑯	下赤集会所	○	○	○	○	○	
⑰	地蔵の木・珠数丸集会所	○	○	×	○	○	
⑱	横通り・大原集会所	○	○	○	○	○	
⑲	前ガ原集会所	×	×	○	○	○	
⑳	油須原コミュニティセンター	○	○	○	○	○	

指定緊急避難場所及び指定避難所について

指定緊急避難場所及び指定避難所とは、災害対策基本法に基づく避難施設であり、一定の基準を満たす施設を市町村長が指定するものです。

指定緊急避難場所

災害発生中または災害発生の危険が高まっている状況において、災害から身を守るための施設であり、災害の種類ごとに指定する必要があります。

安全な場所に立地しているか、建物が堅牢であるかなどの事項が基本的な指定要件になります。

上記一覧表の中で例を挙げると……

地蔵の木・珠数丸集会所は土砂災害の危険が高まっている状況では使用できないということになります。

指定避難所

災害発生後において、被災し自らの居住の場所を確保できない者を一定期間滞在させるための施設です。生活することが可能かどうかが基本的な指定要件になります。

洪水・浸水害に備えて

近年、短時間のうちに急激な雨が降り、洪水や浸水害が発生しているケースが増えています。雨の降り方に注意し、異常を感じた場合は河川や側溝に近づかないようにしましょう。

はん濫の種類

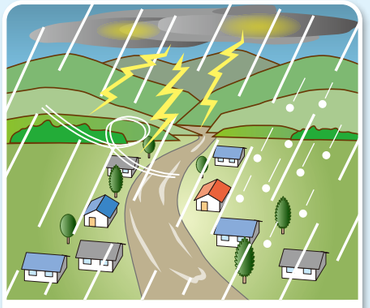
河川はん濫

豪雨時に、増水した河川の水が堤防を越えた場合や堤防が決壊したことによって、土地・建物等の浸水が発生する現象です。

内水はん濫

側溝等の排水能力を超える豪雨によって、土地・建物等の浸水が発生する現象です。

集中豪雨の前兆



- 空が暗くなり、雷鳴や稲妻が走る。
- 冷たい風が吹き始める。
- 大粒の雨やひょうが降り始める。
- 河川の水かさが増えたり、濁る。

雨の強さと降り方

やや強い雨

1時間雨量 10～20mm

地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

強い雨

1時間雨量 20～30mm

土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、小河川ならはん濫、また、崖崩れの心配もあります。

激しい雨

1時間雨量 30～50mm

バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、崖崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。

非常に激しい雨

1時間雨量 50～80mm

滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川ははん濫し、水害発生の可能性が高まります。避難勧告等が出る場合があります。

猛烈な雨

1時間雨量 80mm以上

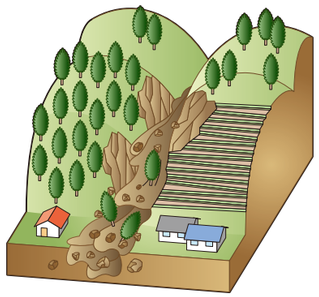
息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。車の運転は非常に危険です。避難勧告等が出る場合があります。

土砂災害に備えて

土砂災害は大きく分けて「土石流」「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」「地すべり」があります。特に赤村は土砂災害が発生しやすいところです。前兆に注意し、災害から命を守りましょう。

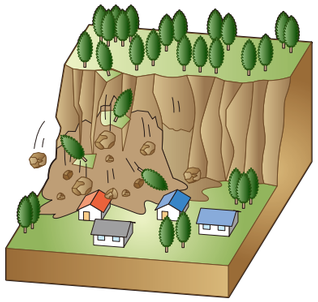
土砂災害の種類

土石流



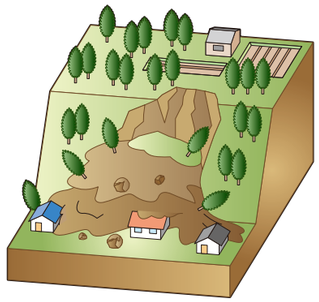
渓流にたまった土砂や石が大雨によって一気に下流に流される現象です。時速20～40Kmという速さで建物などを壊滅させてしまいます。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）



斜面の地表に近い部分が雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。瞬時に崩れるため、逃げ遅れる人も多く、人命が失われることも多いです。

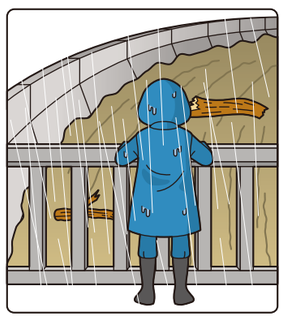
地すべり



ゆるやかな斜面において、降雨の影響で地下水の水位が上昇することによって地面がゆっくりと下に動き出す現象です。範囲が広いため、甚大な被害が発生します。

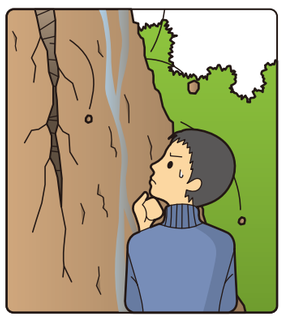
土砂災害の前兆　危険!!こんな前ぶれに注意！

土石流



- 山鳴りがする。
- 川が濁ったり、流木が混じりはじめる。
- 雨が降り続いているのに、川の水位が下がる。
- 腐った土のにおいがする。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）



- がけから出る水が濁る。
- がけに亀裂が入る。
- 小石がパラパラ落ちてくる。
- がけから音がする。

地すべり

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没したり、隆起したりする。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面から水がふきだす。

台風に備えて

地球温暖化の影響と思われる気候変動により、今後は豪雨の頻度増加と共に台風の強度の増大が想定されています。過去の経験が通用しなくなる事態も考えられますので台風接近の場合には気象情報に注意し、早めの避難を心がけましょう。

台風の大きさと強さ

■台風の大きさ

※気象庁による

階　級	風速15m/s以上の半径
表現なし	500km未満
大型（大きい）	500km以上～800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

■台風の強さ

※気象庁による

階　級	最大風速[注1)]（m/s）
表現なし	17m/s～33m/s未満
強い	33m/s～44m/s未満
非常に強い	44m/s～54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

注1）最大風速とは10分間の平均風速の最大値

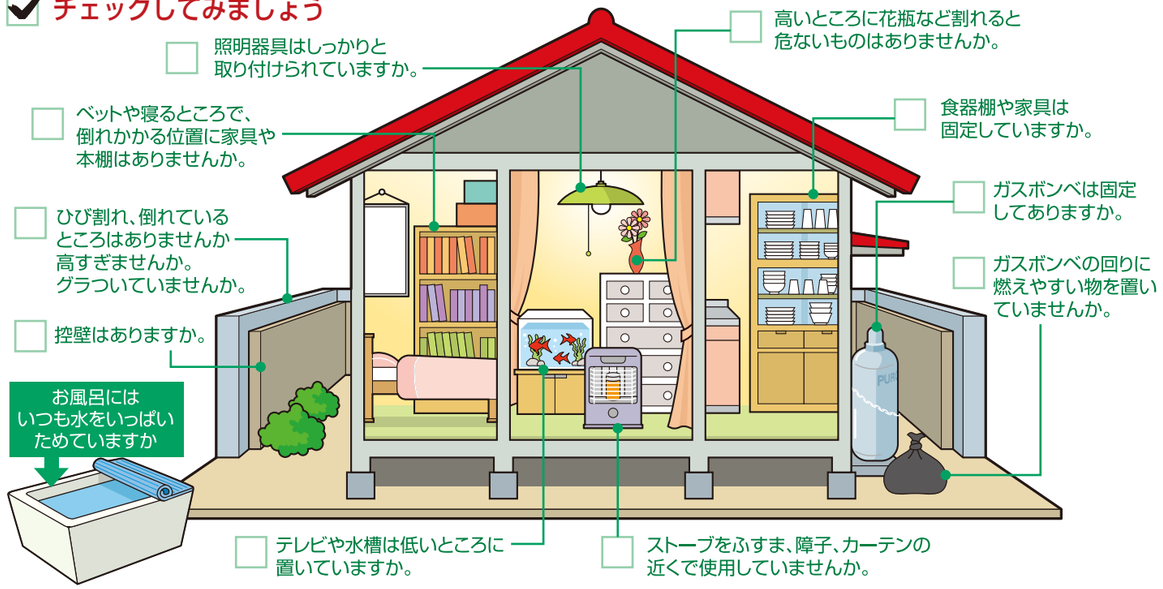
風の強さと被害

風の強さ（予報用語）	平均風速（m/s）	人への被害	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物
やや強い風	10以上15未満	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋（とい）が揺れ始める。
強い風	15以上20未満	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。
非常に強い風	20以上25未満	何かにつかまっていないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張ってない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常の速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものある。固定されてないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム（被覆材）が広範囲に破れる。
	25以上30未満	屋外での行動はきわめて危険。		走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。
猛烈な風	30以上35未満				
	35以上40未満		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。		外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。
	40以上				住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。

地震に備えて

我が家の点検を行いましょう

チェックしてみましょう



地震発生！ その時どうする？

1 まず身の安全の確保

地震の揺れを感じたら、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見ましょう。

2 火の始末

火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をしましょう。

3 出口の確保

震動でドアが開かなくなることがあります。揺れの度合いを見て、戸や窓を少し開け、避難口の確保をしましょう。

4 外へ逃げるときはあわてずに

外へ出るときはあわてずに。瓦や窓ガラスの落下の危険があるので、むやみに外へ飛び出さないようにしましょう。

赤村における地震の想定

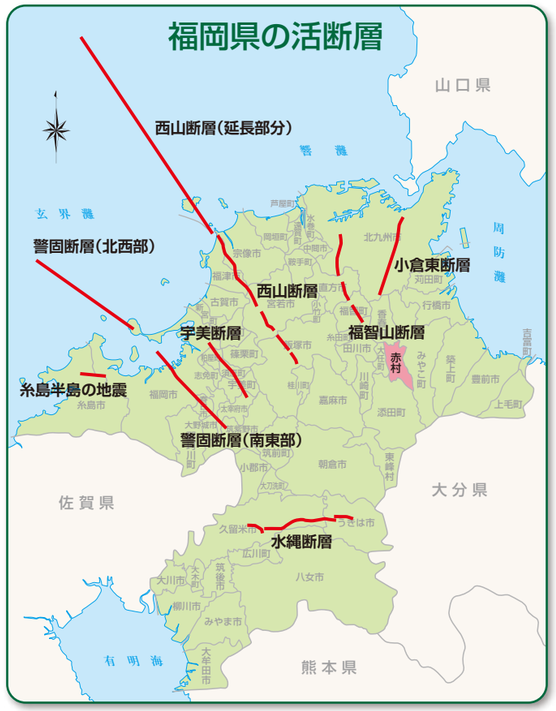
福岡県では、今後大きな被害をもたらすと予想される地震について調査・検討を実施し、その結果を「地震に関する防災アセスメント調査報告書（平成24年3月 福岡県）」により明らかにしています。

そこで、この調査での赤村における地震想定の概要をお知らせします。

福岡県内の活断層について

福岡県には、大きく分けて6つの活断層が存在し、その活断層における地震規模と30年以内の地震発生確率は以下のようになっています。

活断層	地震規模（マグニチュード）	30年以内の地震発生確率
小倉東断層	M6.9	0.005%
西山断層	M7.3	不明
警固断層	M7.2	0.3～6%
水縄断層	M7.2	ほぼ0.0%
福智山断層	M7.0	0.6%
宇美断層	M6.7	不明



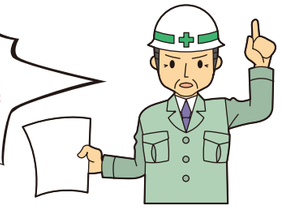
赤村における震度予測

県内の活断層を震源とする地震が発生した場合の赤村における最大想定震度は、以下のようになっています。

また、県の調査報告によると、活断層がない地域においても直下型地震の震源となる可能性があることから、その想定地震を「直下 10kmを震源とするマグニチュード 6.9 の地震」と位置づけ、最大想定震度を予測しています。その結果も以下に示します。

活断層	最大想定震度
小倉東断層	6弱（立っていることが困難になる。）
西山断層	6弱
警固断層	6弱
水縄断層	6弱
福智山断層	6弱
宇美断層	5強（物につかまらないと歩くことが難しい。）

赤村では最大
震度5強～6強の地震
が想定されています。



直下10㎞を震源とするM6.9の地震が発生した場合	最大想定震度
	6強（はわないと動くことが出来ない。飛ばされることもある。）

避難のポイント

避難の基本的な考え方

避難は自ら判断すること

災害のおそれがある時、一人ひとりが置かれている状況には違いがあります。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。

例えば

- 土砂災害警戒区域等の危険な地域に住んでいる。
- 河川の近くや浸水しやすい地域に住んでいる。
- 子どもや高齢者などの家族がいる。

早期避難を心がけましょう

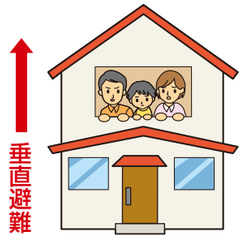
避難所へ行かないことも選択の一つ

屋外がすでに危険な状況においては、避難しないことも身を守るひとつの手段です。屋内で安全な場所に移動するなど最低限の行動を取りましょう。

例えば

- 夜間や急激な降雨で道路の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。
- 浸水は浅いが、水の流れが速い。

屋内の2階以上へ移動する（建物倒壊の危険がない場合）



避難の指標となる情報

災害の危険が高まった場合に、村は段階的に避難に関する3つの情報を発令します。各情報の意味を理解し、適切な避難行動に役立ててください。

避難準備情報	避難勧告	避難指示
●人的被害の危険が高まった段階です。 ●避難に時間のかかる人（避難行動要支援者）は避難を始めます。 ●通常の避難行動ができる人は避難の準備を始めます。	●人的被害の危険がさらに高まった段階です。 ●通常の避難行動ができる人も避難を始めます。	●災害の前兆現象が発生したり、被害が実際に発生している段階です。 ●まだ避難していない人は直ちに避難行動を取る必要があります。

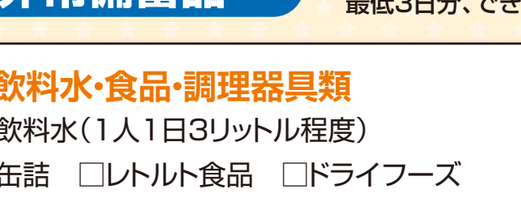
非常持ち出し品と非常備蓄品

非常持ち出し品

避難するときに最初に持ち出します。あまり欲張らず、男性で15kg、女性で10kg程度の重さを目安に準備しましょう。

■飲料水・食品

- □飲料水（1人最低1.5リットル）
- □非常食（カンパン・缶詰・レトルト食品）
  ※乳幼児がいる場合は粉ミルクなども



■貴重品

- □現金
- □預金通帳
- □カード類
- □印鑑
- □健康保険証
- □お薬手帳
- □免許証
- □権利証書類
- □住所録

■生活用品

- □携帯ラジオ
- □携帯電話（充電器）
- □懐中電灯
- □ランタン
- □乾電池
- □ヘルメット
- □笛
- □軍手
- □マスク
- □防寒具
- □カッパ
- □タオル
- □ライター（マッチ）
- □着替え（下着・靴下）
- □救急セット
- □常備薬
- □食器（紙皿・紙コップ・割りばし）
- □缶切り
- □栓抜き
- □ティッシュ
- □トイレットペーパー
- □生理用品
- □ゴミ袋

非常備蓄品

災害復旧までの数日間を生活できるように準備しておくものです。最低3日分、できれば5日分を準備しておきましょう。

■飲料水・食品・調理器具類

- □飲料水（1人1日3リットル程度）
- □缶詰　□レトルト食品　□ドライフーズ
- □栄養補助食品（サプリメント）
- □調味料　□カセットコンロ
- □ガスボンベ　□キャンプ用食器セット

■生活用品

- □テント　□防寒防水マット　□毛布
- □寝袋　□洗面用具　□工具類
- □簡易トイレ　□トイレットペーパー
- □救急セット　□常備薬　□生理用品
- □その他個人で生活に必要なもの

防災情報の配信

福岡県及び赤村では、災害から身を守るために役立つ防災情報を携帯電話を用いた以下二つの方法により配信しています。携帯電話をお持ちの方は、ぜひ活用しましょう。

防災メール・まもるくん

大雨や台風、地震・津波などの気象情報や避難勧告などの防災情報をメールで知らせるサービスです。

まもるくん 4つの機能!!

❶地震、津波、台風、大雨等の防災気象情報、避難勧告等の配信 ❷災害時の安否情報通知 ❸地域の安全に関する情報の配信 ❹福岡県避難支援マップ

登録方法

メール登録 無料※

❶ メール機能を使って以下のメールアドレスに空メールを送信します。
※メールの件名や本文には何も記載する必要はありません。

「防災メール・まもるくん」へのアクセスにご利用ください。

mamoru@bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp

❷ 返信メールが届きますので、メール本文に記載されているホームページＵＲＬをクリックし、画面の指示に従って登録手続きを行ってください。

※登録は無料ですが、メールの送受信やホームページ閲覧などに伴う通信料は利用者の負担となります。

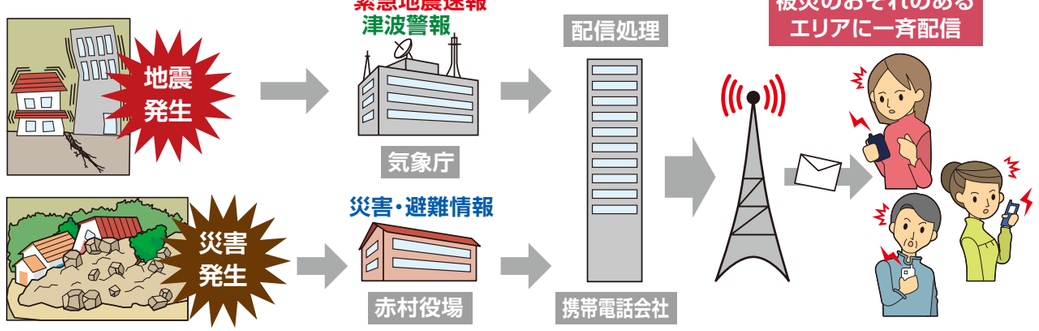
注意事項 迷惑メール対策等の受信設定をされている場合、返信メールが届かないことがあります。「mamoru@bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp」からのメールが届くように設定を変更してください。設定変更方法については、取扱説明書をご覧になるか、携帯電話会社までお問い合わせください。

【お問合せ先】福岡県総務部防災危機管理局防災企画課防災情報係　電話092-643-3114

緊急速報メール

気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、赤村が配信する避難勧告等の防災情報を村内にいる携帯電話をお持ちの方全員に一斉配信するサービスです。登録手続きは不要で、対応した機種の携帯電話であれば、基本的に自動受信されます。

緊急速報メールの仕組み



注意事項 対応機種の確認や設定変更方法については、取扱説明書をご覧になるか、携帯電話会社までお問い合わせください。

緊急時のテレホンガイド

困った時の連絡先

○防災全般に関しては	赤村役場	0947-62-3000
○火事・救急は	田川地区消防本部	0947-44-0650（または119番へ）
○行方不明・交通・防犯等は	田川警察署 田川警察署赤駐在所	0947-42-0110（または110番へ） 0947-62-2026
○県道・今川に関しては	福岡県田川県土整備事務所	0947-42-9111

災害用伝言サービス

災害用伝言ダイヤル 171

災害発生時に被災地の方と連絡・安否確認

家族間や知人間などの、安否の確認連絡に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は、一切不要です。（一般電話、公衆電話、携帯電話からご利用になれます。）

伝言を録音する場合

171 → 1 → 「被災地」の方の電話番号（市外局番から）0947-××-×××× → 伝言を入れる（30秒以内）

赤村の場合

音声による案内が流れます。「被災地」の方は自宅の電話番号を、「被災地以外」の方は被災地の方の電話番号（市外局番から）をダイヤルして下さい。

伝言を再生する場合

171 → 2 → 「被災地」の方の電話番号（市外局番から）0947-××-×××× → 伝言を聞く

音声による案内が流れます。「被災地」の方は自宅の電話番号を、「被災地以外」の方は被災地の方の電話番号（市外局番から）をダイヤルして下さい。

携帯電話の災害用伝言板

携帯電話・PHSのインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話・PHS番号をもとにして全国から伝言を確認できます。
（スマートフォンでのご利用については、各社のページでご確認下さい。）

トップメニュー → 災害用伝言板
- 伝言を登録する場合 → 「登録」を選択して伝言を入力する。
- 伝言を確認する場合 → 「確認」を選択し、安否を確認したい人の携帯電話番号を入力して伝言を見る。

各社の災害用伝言板サイトアドレス

NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
au	http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトバンク	http://dengon.softbank.ne.jp/
ワイモバイル	http://dengon.ymobile.jp/info/

防災情報インターネットサイト

各種防災情報はテレビやラジオはもちろん、インターネットで収集が可能です。
ここでは代表的な以下のサイトを紹介します。

提供情報	提供機関	アドレス
気象情報	気象庁	http://www.jma.go.jp/
防災情報	国土交通省九州地方整備局	http://www.qsr.mlit.go.jp/bousai_joho/
	福岡県防災ホームページ	http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/